

<事務局便り>

平成 23 年度炉物理部会運営委員

氏名	役職	所属
佐治悦郎	部会長 (任期 1 年)	三菱重工業
岩崎智彦	副部会長 (任期 1 年)	東北大学
松本英樹	庶務幹事 (任期 1 年)	三菱重工業
高橋利昌*	庶務幹事 (任期 2 年)	東北電力
佐藤大輔*	庶務幹事 (任期 2 年)	東北電力
北田孝典	部会等運営委員会担当運営委員	大阪大学
山本俊弘	編集委員会担当運営委員	京都大学
奥村啓介	HP 担当幹事	原子力機構
小嶋健介	HP 担当幹事	原子力機構
西原健司	財務小委員会担当幹事 (任期 1 年)	原子力機構
大岡靖典	財務小委員会担当幹事 (任期 2 年)	原子燃料工業
杉村直紀	編集小委員会担当幹事 (任期 1 年)	原子力エンジニアリング*
木村佳央	編集小委員会担当幹事 (任期 2 年)	中電シーティーアイ
岩崎智彦	セミナー小委員会担当幹事 (任期 1 年)	東北大学
高橋利昌	セミナー小委員会担当幹事 (任期 1 年)	東北電力
渡嘉敷幹郎	学術交流小委員会担当幹事 (任期 1 年)	原子燃料工業
遠藤知弘	学術交流小委員会担当幹事 (任期 2 年)	名古屋大学
中里道	学生・若手小委員会担当幹事 (任期 1 年)	三菱重工業
谷中裕	学生・若手小委員会担当幹事 (任期 2 年)	原子力機構

*第 35 回全体会議にて高橋氏から佐藤氏への庶務幹事の交代を承認。

各役職の担当内容については、運営小委員会内規をご覧ください。

(<http://rpg.jaea.go.jp/else/rpd/management/articles/article3.pdf>)

編集小委員会からの御願い

部会報に対するご意見・ご要望などがございましたら、編集小委員会までお知らせ下さい。また、部会報の原稿として、「部会員の声（自由投稿欄）：内容不問で自由に投稿・意見を述べられる場」を常時募集しています。また、部会ニュース（ホームページに掲載）の原稿もございましたらお知らせください。

連絡先：編集小委員会（会報担当）

杉村直紀 nsugimura@neltd.co.jp

木村佳央 kimura.yoshio@cti.co.jp

炉物理部会員の名簿は、日本原子力学会の名簿を基づいて作成しております。学会名簿は、部会報の郵送、部会メーリングリストの発信先 E メールアドレスなどに使用されます。勤務先、メールアドレス等に変更がある場合には、速やかに日本原子力学会に登録情報の変更手続きをして頂くようお願いいたします。変更手続きは、以下の URL からオンラインで申請が可能です。

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/aesj/member/henkou.html>

日本原子力学会炉物理部会 第 35 回全体会議 議事録(案)

平成 23 年 9 月 26 日

日時:平成 23 年 9 月 20 日(木)12:00-13:00

場所:日本原子力学会 2011 秋の大会 N 会場

(西日本総合展示場 AIM-315 会議室)

1. 平成 23 年度運営小委員会

部会長より、配布資料 35-1 に基づき、平成 23 年度運営委員会設立経緯について報告があった。H23 年度運営小委員会は、平成 22 年度運営小委員会の内規第 6 条によって発足し、部会 ML にて承認を受けているが、内規に基づく処理には、全体会議での事後承認を必要としていることから、第 35 回全体会議で正式承認頂きたい旨の発議があり、全会一致で承認された。尚、併せて、庶務幹事 1 年目の東北電力高橋氏からの願い出により、同社佐藤氏へ交替することも承認された。

2. 炉物理部会賞贈呈式

部会賞の表彰式を行った。受賞者は、以下の 2 名であった。表彰状が授与され、副賞として金 5 千円が後日振り込まれることの報告があった。

- ・「高速炉核特性解析手法の高度化」千葉 豪 氏
- ・「革新的小型シンプルペブルベッド型炉の概念設計研究」Dwi Irwanto(ドゥイ イルワント)氏

3. 平成 22 年度会計報告

財務担当幹事が 2 名共欠席であったため、庶務幹事より平成 22 年度炉物理部会収支報告(配布資料 35-3)を報告した。

4. 平成 23 年度予算案

財務担当幹事が 2 名共欠席であったため、庶務幹事より平成 23 年度炉物理部会予算案(配布資料 35-4)を報告した。

また、平成 23 年度予算案については、H22 年度と異なって予算編成時に赤字予算を組まないこと、セミナー活動への助成金を出さないことという学会事務局の指示により、従前と異なっている点の紹介があった。尚、部会より正式に申告すれば、従前の活動費は拠出可能であることの紹介もあった。

5. 第 43 回炉物理夏期セミナーの報告

セミナー幹事から配布資料 35-5 に基づき、実施内容の概要報告と会計報告があった。詳しくは、炉物理部会季刊誌にて報告されるとのことである。

6. 日韓学生・若手セミナー活動の紹介

学術研究交流小委員会担当幹事より最近の日韓学生・若手セミナーに関する実績および計画の報告があった(配布資料 35-6)。

また、2012年の日本開催計画に関しては、京大炉中心となり実施する計画であり、京大炉より企画書を用いた説明があった。

7. PHYSOR2014 の誘致の件

部会長より、2014年のPHYSOR(ANS Reactor Physics Topical Meeting)は、慣例ではアジア圏での実施となるが、炉物理部会として誘致への賛否、誘致する場合の体制等に関する協議について発議があり、ANSの運営委員である名大山本教授から、具体的なスケジュールについて説明がなされた。(配布資料 35-7)

部会としては賛成していく方針であることが確認された。JAEAの岡嶋氏から予算に関する懸案を除き、JAEAが中心となることに問題はない旨の説明があった。

今後、炉物理部会としてPHYSOR2014を支援する組織を作り、JAEAの運営組織とタイアップしていく。

8. 部会等運営委員会報告

部会等運営委員会担当幹事から配布資料 35-8に基づき、以下の報告がなされた。

- ・ 学会財政状況に係る検討状況
後3～5年で運営不能な状態になる可能性がある。例えば部会費を上げる等の対策が講じられる可能性がある。尚、この部会費増加については、強力な反対意見が出された。
- ・ 春の年会における部会企画セッション提案募集
来月末までに次期部会セッションをまとめる必要があり、部会MLで再度募集をかけることとなった。
- ・ 規程、規約、内規などの整理に関して
部会間で、規程、内規、規約等の文言を統一するよう方針であることが紹介された。特に、「規程」は、取り扱いが難しくなるため、名前の変更が必要とのことである。

また、部会の設置目的に、福島第1原子力事故に対する貢献等を組み込むよう依頼がきており、MLで議論することとなった。

9. その他

- ・ GLOBAL2011(日本での開催)組織委員会の状況
- ・ 炉物理部会関連国際学会の情報等

編集後記

本年度の炉物理部会報の編集に当たり、ご多忙の中、執筆依頼に快く応じていただいた筆者の方々に心から御礼申し上げます。

以前、学会の企画セッションなどで炉物理研究と社会との係わりなどについて議論されていましたが、現在の失墜した原子力の信頼を取り戻していくためには、社会への情報発信について、今後ますます力を入れていかねばならないと思います。一方、現在の炉物理部会報はWebで公開されているので、炉物理部会の社会に開かれた窓口の1つと言えなくはありません。そういう意味で、「一般人向けの特集も組んだほうが良かったかなあ」などと編集後記を書く段階になって思ってしまったわけですが、今となっては時間的制約もあり、そのあたりは、次号以降で考慮してもらおうと勝手に思っています。

3.11以前に軽い気持ちで引き受けた編集小委員会担当幹事でしたが、現在の流動的な原子力情勢の中、部会運営委員やその関係者の方々など、様々な方と接点を持つことができたことは、非常に貴重な体験でした。この場を借りて御礼申し上げます。また、現在、20代の若手の炉物理部会員の方には、良い経験ですので部会運営委員になられることを是非お勧めいたします。

(編集小委員会担当幹事: 杉村直紀)